

3月のコラム 就活セクハラを考える

来春春卒大学生の就活が本格的に始まりました。厚生労働省の職場のハラスメントに関する調査結果によると、約3割の学生が、インターンシップや就活でセクハラ被害を受けたと回答しています。このアンケート結果だけをもって全てを論ずることはできませんが、詳細を見て驚いたことがあります。セクハラと言えば多くの場合、被害者は女性と思い込んでいました。

しかし、就活に関する部分で「男女・学歴別」の欄を見ると、「インターンシップ中にセクハラ経験したと回答した割合は男性（32.4%）となり、女性（27.5%）より高かった。さらに男女・学歴別でみると、経験したと回答した割合は「男性 大学院生」（42.4%）において最も高かった。また、インターンシップ以外の就職活動中のセクハラについても、男性（34.3%）の方が女性（28.8%）より経験した割合が高かった。」とあります。

セクハラ行為の内容としては、「食事やデートへの執拗な誘い」（35.1%）、「不必要な身体への接触」（27.2%）の順に多くなっています。全体としては、女性へ対する行為の方が多いのですが、「性的な事実に関する質問」「不必要な身体への接触」などは、男性の方が多くなっています。男性へのセクハラは、女性からのみならず同性の男性からのものも含まれます。

私見ですが、大勢の家族と肩を寄せ合って暮らし、銭湯へ行って同性の裸を見るのに慣れていた時代と、子どもの時から個室を与えられ、家族との食事でさえ会話が少ない時代に育った人たちでは、元々の感覚自体が異なるのは当たり前のこと。特に人との距離感の感じ方には差があるのかなと思います。就職という社会への入り口で人間関係に嫌悪感や違和感を持ってしまうのは残念なことです。

ご存じの通りセクハラに関しては、例えそのつもりがなくても、受け手が不愉快に感じればハラスメントになります。「平均的な労働者が不快に感じるかどうか」が基準にはなりますが、人によって感じかたも捉え方もそれぞれ。やりづらいなあ。配慮することばかり増えて面倒！って思ってしまうますよね。でも、職場における部下や周囲とのコミュニケーションの目的は、気を使って単に相手に合わせることでなく、お互いが気持ちよく効率的に仕事ができるようにすること。互いに連携しながら、個々の能力をしっかりと発揮できる職場環境を作っていくこと。企業のリクルーターやOB、OGは、個人への興味・関心でなく一緒に働く仲間を探しているのだという原点を忘れずにいたいものです。良い出会いがありますように！

2025年3月 水田かほる

<参考> 令和5年度 厚生労働省委託事業 職場のハラスメントに関する実態調査報告書

<https://www.mhlw.go.jp/content/11200000/001256079.pdf>